

国際的視点から見た国内緩和対策

中央環境審議会地球環境部会
産業構造審議会環境部会地球環境小委員会
合同会合(第15回)

2007年5月25日

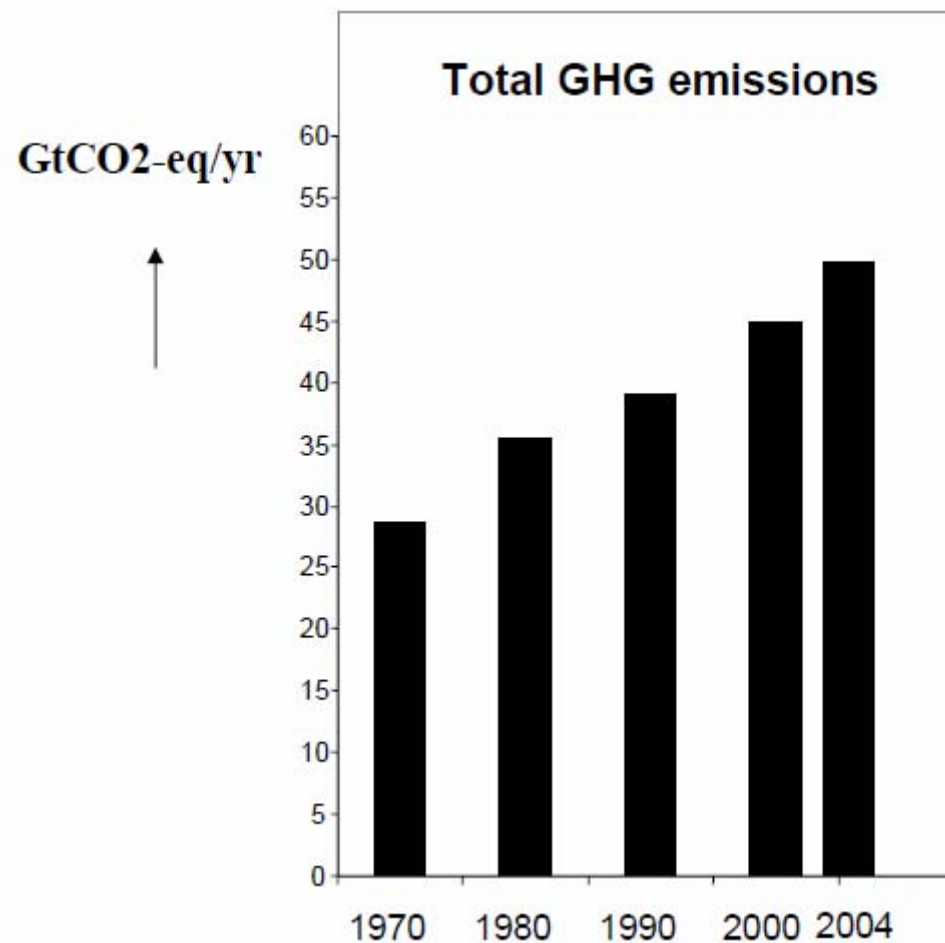
CAN Japan

小野寺 ゆうり

Climate Action Network (CAN)

- 国連気候変動枠組条約の下で認められた環境NGOのフォーラム
- 約400の世界自然保護基金(WWF)、グリーンピース、FoE等の国際環境保護団体、世界資源研究所(WRI)等の独立研究機関及び国別環境及び開発に関わるNGOからなるネットワーク(事務局ボン)
- ヨーロッパ、東欧、アメリカ、カナダ、オーストラリア、西部アフリカ、南部アフリカ、中南米、南アジア、東南アジアに地域ノードを持つ
- CAN Japanは気候ネットワーク、WWFジャパン、環境エネルギー政策研究所(ISEP)、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)、「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、FoE Japanにより日本ノードとして発足

「温室効果ガス(GHG)の排出量は、産業革命以降増加しており、1970年から2004年の間に70%増加した。」

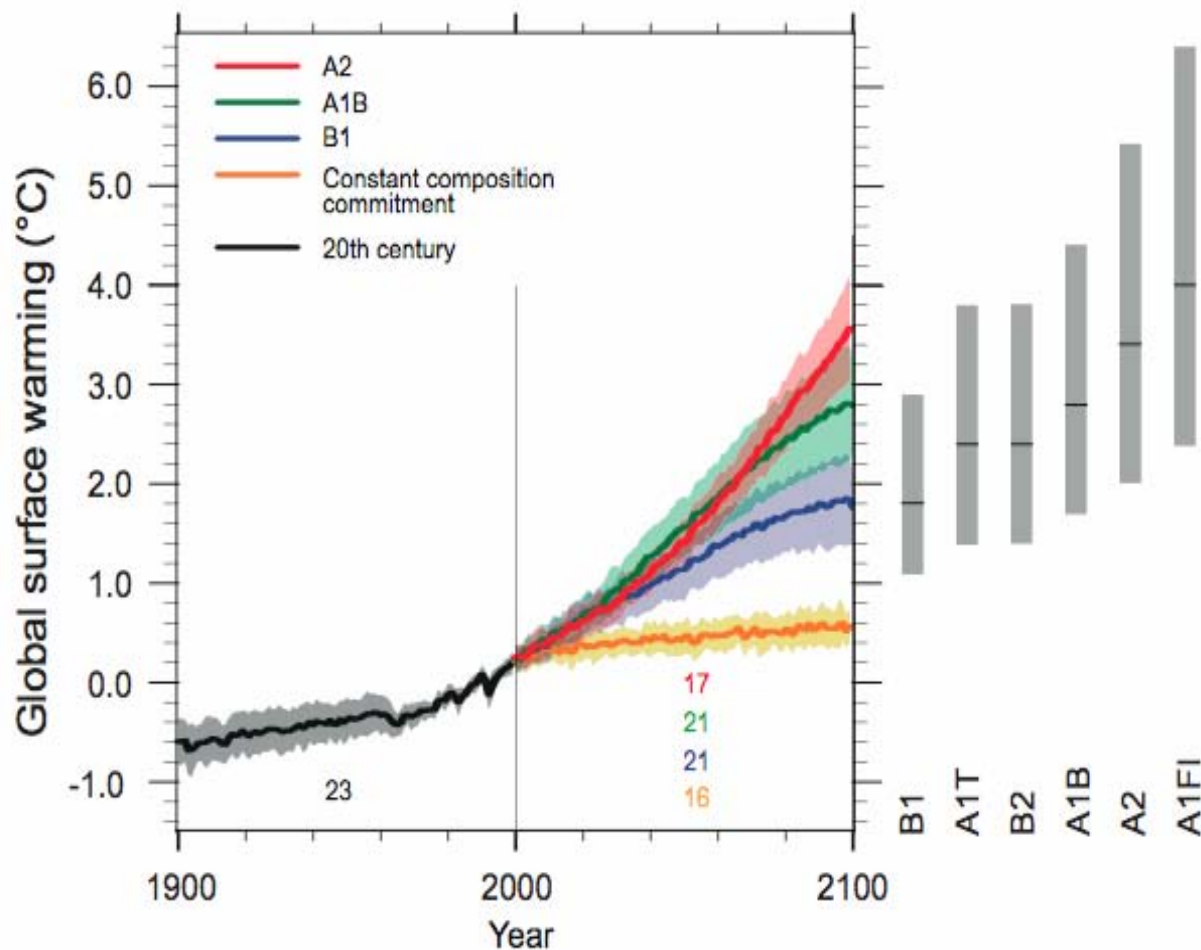


IPCC第四次評価報告第三作業部会, 2007

予想される世界平均気温の上昇量

持続発展型社会シナリオB1の最良予測は 1.8°C ($1.1^{\circ}\text{C} \sim 2.9^{\circ}\text{C}$)

化石エネルギー重視型高成長社会シナリオA1FIの最良予測では 4.0°C ($2.4^{\circ}\text{C} \sim 6.4^{\circ}\text{C}$)



SRESシナリオによる21世紀末(2090~2099年)に予測される世界平均地上気温の上昇量(単位:°C)。1980~1999年に対する昇温量(最良の予測と対応する可能性が高い予測幅)。出典:IPCC第一作業部会第四次評価報告書